

## 福島から 10 年 :

### ドイツの原発段階的廃止へのコミットメントは続く

スバーニャ・シュルツェ氏は原子力の段階的廃止の完了に関する声明を公表した。それはドイツの原子力リスクを最小化するためにどのような追加措置が必要かを示している。

連邦環境大臣が原子力の段階的廃止を完了させるための 12 の計画を提示

福島の原子力災害の 10 周年に際し、スバーニャ・シュルツェ連邦環境大臣は原子力の段階的廃止を完了するための 12 の計画を提示した。この計画では、2022 年末にドイツの最後の原発が閉鎖された後の原子力リスクを最小限にするためのさらなる措置について述べている。ドイツと EU、国際的なレベルで関連する措置と政治的観点を含んでいる。連邦環境省の立場はシュルツェ環境相、ティネ・バン・デ・ストラテンベルギー環境相、レオノーレ・ゲベッスラーオーストリア環境相が出席した「福島から 10 年の原子力」という会議で本日議論された。

シュルツェ環境大臣は「来年、ドイツの最後の原発が停止する時、私たちは歴史的な目標を達成する。社会における主要な闘争が成功裡に終結し、ドイツの核リスクは徐々に減少していく。これは、原子力の段階的廃止とエネルギー転換のために弛まなく努力してきた多くの人々のおかげだ。しかし、原発のリスクを終わらせるためには、ドイツ、欧州そして地球規模での断固とした行動が必要だ。2022 年のドイツの段階的脱原発の完了で私たちの行動が終わるのではない。ドイツの環境省と私はドイツの段階的脱原発の完了のために力をつくし、欧州の核リスクを減らし、世界における原子力の安全を向上させていく」とコメントした。

シュルツ大臣にとってドイツの段階的脱原発の完了には、グローナウ、リンゲンにある核燃料を供給する施設の閉鎖が含まれる。環境省が立法期間中にそのことを訴えたが、連邦政府から必要な支援は得られなかった。国境近くの古い原子力施設への輸出をシンプルに禁止することは法的に不可能だ。シュルツ大臣は、「私たちの段階的脱原発は、燃料の製造と海外の原発への燃料という要素と両立できない。段階的廃止の決定をした当時には閉鎖ということが見落とされていた。この問題を終わらせるためには、この見落としを取り除くこと、それが法的に確実に正しいやり方だ」と述べた。

欧州レベルでは、環境省は原発に批判的な国々との連携を望んでいる。欧州の複数の国での運転寿命の延長に対して、シュルツ大臣は国際的に立場を明確にしており、ドイツによる国境支援を約束している。そして「私は国家のエネルギーについての主権を侵さないという原則を尊重する。しかし、私は欧州の原発の老朽化について非常に憂慮している。老朽化した設備に対しては、一時しのぎの対策しかできない。包括的な解決策がない。それがドイツ政府が運転寿命の延長に反対している理由だ」と述べた。ドイツ政府は、最終的には運営寿命の延長を阻止することはできないかもしれないが、あらゆる機会をとらえて近隣諸国とその住民のために透明性と参画を確保していく。

ドイツは、エスポー条約に基づく拘束力のあるガイドラインを適用することに成功しました。ガイドラインは、原子力施設の運転寿命延長に関する国境を越えた環境影響評価（EIA）を必要とする条件を定めている。ドイツでは、連邦州レベルの機関がこの EIA 手続をとることとなっている。環境省は、BMU は、将来これらの機関が評価をおこなう際に、技術的支援を提供する。

環境省は、ドイツの最後の原発が閉鎖された後も、最高レベルの安全基準を国際的レベルで推進し続ける。これは、原子力賠償責任についても同様だ。ドイツとは異なり、多くの国は事業者の無限責任の原則をまだ採用していない。ドイツが原子力についての専門知識を維持していくことは、最高の水準を効果的に広めていくための重要なステップである。シュルツ大臣は「

ドイツに自国の原発計画がなくなっても、国際的な場での原子力についての対話に積極的に参加できるべきだ。原子力については多くの神話が信じられている。私たちは、きちんと検証された最新の知見でこれに対抗していきたい」と述べた。

シュルツ大臣は、気候変動対策を原発に依存することは否定し、「それは深刻な過ちだ。気候変動に取り組む人は誰も、原発を気候変動の解決策として考慮すべきではない」と述べている。追加的なコストやリスクもあり、原子力はもっとも高くつく電源オプションだ。新規の建設は費用がかかすぎるだけでなく、気候危機の緊急性を考慮した場合、時間もかかりすぎる。新規の設備からもいつまでも残る廃棄物を生み出す。シュルツ大臣は、「それは持続可能からは程遠い。とくに、再生可能エネルギーがより安く、より安全で、持続可能なオプションとして利用可能なのだからなおさらだ」と結んだ。